

# 湧愛

YOU & I

編集・監修・発行

安曇野市男女共同参画推進会議

安曇野市男女共同参画コミュニケーター  
安曇野市

事務局：安曇野市人権男女共同参画課

電話：(0263) 71-2000(代)

FAX：(0263) 71-5155

## 防災と男女共同参画



安曇野市消防団には、女性消防隊が存在することはご存じでしょうか。平時から、自主防災組織への女性の参画を進めることで、地域防災の場面で、性別による固定的役割分担意識の解消を図ることや、地域の消防団として女性の特性を活かし、活動できる女性消防隊への支援、入団しやすい環境整備も必要です。

非常時には見えにくい社会の問題が、災害時には顕著に現れるため、年齢、性別や障がいの有無等、一人ひとりのおかれた状況により異なるニーズへの迅速な対応が求められます。

避難所の運営についても「生活の場」となることから、多様な視点により方針を決定するため、女性の参画が欠かせません。暮らしに寄り添う気配りや、配慮

があるだけで関連死も防げる可能性が高まります。

災害の種類や状況によって、避難生活に必要な対応は変化しますが“備えあれば憂いなし”の体制に常におくこととともに男女のニーズの違いを意識した災害用備蓄の購入が必要となります。

- ・飲料水1人水3ℓ/日
- ・食料3日分
- ・懐中電灯
- ・携帯ラジオと予備の電池
- ・雨具
- ・救急用品
- ・お薬手帳
- ・連絡用のアドレス帳
- ・通帳のコピー
- ・携帯トイレ
- ・ローソク
- ・ライター
- ・マッチ
- ・ティッシュペーパー
- ・筆記用具
- ・着替え
- ・タオル
- ・ハサミ
- など

小さなお子さんがいれば、おむつや離乳食等、高齢者がいれば、つえや普段服用している薬などの持ち出しも検討が必要です。また、携帯トイレの備えも大切との声があります。感染症の予防のためにも、食事をとったあとの、対策まで考える必要があります。

女性のコミュニケーション能力が、多様な人々が避難所生活をする場所の運営に役立つと言われています。運営に関わる女性が増えるといいですね。

### ～ 第61回長野県消防ポンプ操法大会成績 ～

第11分団（穂高有明）が小型ポンプ操法の部で初優勝しました。地域防災の担い手でもある消防団の活躍も、心強い存在です。



### ～目次～

- 1頁 ◆防災と男女共同参画
- 2頁 ◆男女共同参画フォーラム 2019
- 3頁 ◆言葉の学習 (SDGs って何?)
- ◆男女共同参画社会づくりに向けての全国会議
- 4頁 ◆地域を照らす (あったカフェ)
- ◆男女共同参画川柳
- ◆つなぐ



# 安曇野市男女共同参画フォーラム 2019

(実行委員会構成：男女共同参画推進会議 / コミュニケーター / JA 松本ハイランド / JA あづみ / 松本人権擁護委員協議会安曇野部会 / 国際女性教育振興会中信部会)

主催  
安曇野市男女共同参画  
フォーラム実行委員会

2019. 7.13 (土) 14:00 ~ 市役所 4 階大会議室にて男女共同参画フォーラムが 2 部構成で行われました。

## 第 1 部 講演会 演題「あなたが創る安曇野の未来」

太田寛長野県副知事を講師に迎え、講演をお聞きしました。

長野県は全国に先駆けSDGs(持続可能な開発目標)を計画に取り入れ、「しあわせ信州創造プラン 2.0」“学びと自治の力で拓く新時代”総合5か年計画の策定が行われました。各施策には、SDGsの17の目標と関連づけがされているそうです。(SDGsについては、次ページを参照ください)

SDGsの目標にある“ジェンダー平等を実現しよう”にもつながりますが、女性の管理職・校長教頭・区長などは、まだまだ少ないため、女性が手を上げ易くすることも大切です。また、女性の社会参画には、男性の後押しも不可欠と言えます。

学びと自治の力で新時代を拓くためには、人々が主体的に学び、社会の一員として位置づけられ、新たな社会の仕組みを創り上げていくことが重要との事でした。



## 第 2 部 パネルディスカッション

### テーマ 「安曇野の男女共同参画社会をどう創りますか？」

長野県副知事 太田 寛さん	学びの場を活かすことにより、文化の栄える皆の参加する地域づくり 人生100年時代。いくつになっても自主的に学ぶことで、知識や技術が向上し地域も元気になる。地域と学校等が一体となり活気がある地域づくりが大切
(株)デンソーエアークール 人事総務部長 宮田齊昭さん	〇〇甲斐を感じられる会社になりたい 女性社員の定着率の向上・採用における女性比率20%向上・女性のいない職場をなくす・キャリアデザイン研修を実施 結婚・出産を理由とする退職数が0人に。今年度採用女性比率50%達成。取組後、すぐに効果が出た。今後も、年休を取得するのは当たり前の風土づくりを進めるなど、働く環境整備に力を入れている
豊科公民館長 鈴木桂子さん	地域の人とのネットワーク作り 公民館活動参加者は女性が多い。しかし公民館の役員は男性が多い。女性はネットワークを作るのが得意。女性が地域で活躍するには、男性の“応援しているよ”という後押しも大切
市議会議員 小林陽子さん	安曇野を盛り上げたい！ 道祖神のまち 安曇野は夫婦の道祖神が多い地域。男女が協力する見本的な像でもある。道祖神のように、認めあいながら地域を盛り上げたい

長野県は、全国でも1番公民館や博物館が多いそうです。学ぶ環境は整っています。

今年度、男女共同参画社会づくりに向けた全国会議のキャッチフレーズは

男女共同参「学」 知る 学ぶ 考える 私の人生私がつくる です。

フォーラムの内容と重なり、学びの大切さを改めて実感しました。

## 言葉の学習4

## SDGs (エス・ディー・ジーズ) って何?

2015年9月に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、2030年に向けた持続可能な社会の実現のため「地球規模の優先課題」と「世界のあるべき姿」について17の目標169のターゲットから構成された世界共通目標です。経済的な利潤の追求、貧困や差別などの根絶、地球環境の保全といった「経済・社会・環境の三側面」の向上をめざして行動することが、全ての主体に求められています。

17の目標のひとつ、「5. ジェンダー平等を実現しよう」では「あらゆる場所における、全ての女性及び女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する」といったターゲットや

「政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する」等があります。

以上、男女の固定的な性別役割分担意識を解消し、誰もが自らの意志に基づいて個性や能力を十分に発揮できる社会づくりの目標となっています。

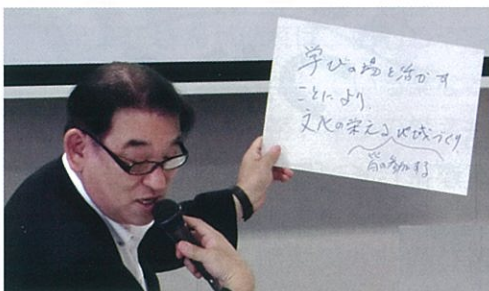


## 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

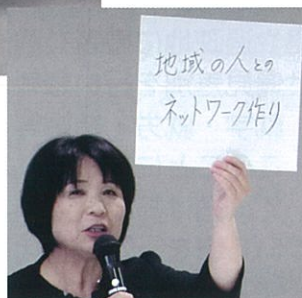
男女共同参画週間(6/23~29日)にあわせ、男女共同参画社会づくりに向けての全国会議が、東京国際フォーラムを会場にして開催されました。今年のテーマは「学び」です。市男女共同参画フォーラムのアトラクションとして、男女共同参画コミュニケーターが、男女共同参画全国会議の特別応援メッセージの内容をペープサート劇で披露しました。

特別応援メッセージとして登壇したのは、大手銀行に勤務し、定年間際にパソコンの勉強を始めた、若宮正子さん。80代にして、アプリの開発で注目を浴びた方です。若宮さんは、「あらゆる機会をとらえ、主体性を持って勉強することが大切。何歳から初めても遅いことはない、学びは自分の力になり、自信にもなる。自分へ学びの投資をしよう!」と、全国会議参加者にメッセージを送っていました。

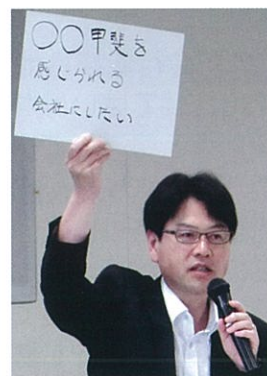
長野県太田副知事



⇒男女共同参画フォーラム  
パネルディスカッション  
まとめの様子



鈴木公民館長

デンソーエアクル  
宮田さん

小林議員



# 地域を照らす

## あったカフェ



安曇野市役所1階の「あったカフェ」。昼時訪れると、レジの前は長い列。後ろに並び、前の方に聞いてみると「ここのお昼は安くて美味しい。コーヒーについている焼き菓子も楽しみ」と。庁舎内で働いている人だけでなく、庁舎を利用した人が、ついでにひと休みの場所としても活用されているそうです。

このカフェは、障がいのある方の支援を行う市内の事業所が、共同で運営しています。安曇野市中央図書館(みらい) 入口の喫茶コーナーを市社協で行っているのを知り、私たちもやってみたく思っていたところ、新庁舎オープンに合わせ出店の声をいただいたそうです。

安曇野かんぱに一、夢の実、イーリス、安曇野市社協(豊科たんぼぼ、三郷すみれの郷、ま・めぞん)の4団体6事業所が現在運営しています。食事はランチタイムのみ、喫茶は10時から午後3時ラストオーダー。手作りのクッキーやケーキ等特色を出しています。

目指している事は働く場の継続です。障がいはあっても、一般の人とのかかわりを持つ場として、生き生きと働くことが出来、自宅や作業所とは違う“居場所”として「これからも継続していきたい」とおっしゃっていました。

昼食のカレーは心にも体にも優しい味がしました。

男女共同参画川柳 寄稿

平和にはいつも気が合う夫婦坂  
 男飯(メシ)妻が上手に盛りつける  
 役割を曖昧にする電子器具

俊江 利子 清子



### 負の遺産の検証と伝承 (ハンセン病)

戦後74年が経ち、終戦の記念行事が各地で行われました。マスコミは「負の遺産を風化させてはいけない」「後世に対しての真実の伝承と検証が必要」等と報道しています。負の遺産は戦争だけでなく様々な事柄があります。その一つに最近大きな話題になった「ハンセン病問題」があります。間違った事柄を私達が正しく「語り部」として声を上げなければ、忘れ去られ将来の再発防止につながりません。

ハンセン病は、伝染・感染するものとして離島や過疎地に患者を強制的に隔離入所させました。国のこの様な政策により、市民は一層不安を募らせ偏見差別を行い患者だけでなく家族・親族に対しても、理不尽な差別が行われました。その内容は、就学・就労・結婚等という生活の基本となる事から日常生活のいじめなど計り知れないものでした。このことに対して、本年7月にハンセン病の元患者の家族への賠償を国に命じた熊本地裁判決について、国は控訴しないことを決めました。その他にもまだまだ無知や誤解から、偏見・差別が行われている事を、次の世代に正しく「伝承・つなぐ」ことが必要です。

